

hida
広報

ひだ

町 木

第87号
肥田町
まちおこし
推進協議会

謹賀新年

自治会長 児玉和男

新年明けましておめでとございませう。

町民の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年中は、自治会活動につきまして格別のご理解とご協力を賜わり、誠にありがとうございました。また、自治会役員、各種団体役員、ボランティアサークル、組長の皆様方には、特にご協力いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、米国トランプ政権の自国ファースト政策によって世界が振り回され、特に中国との貿易摩擦や覇権争いの日本への影響が心配となり、これからの政治はますます厳しく難しい時代に入っていくと思われまます。

また、自然災害が多かった年との印象も深いものがあります。

六月の大阪北部地震、七月の西日本豪

雨災害、その後の連日の猛暑、常識外の東から西へ日本を横断した台風、八月の毎日のように発生した台風、九月の台風二十一号は猛烈な風が西日本を襲い、大きな被害を受けました。肥田町でも、公民館と地藏堂屋根瓦のめくれあがりや漆喰はがれの被害があり、住吉神社境内でも神木が倒伏するなど、今までに経験したことのない被害が発生しました。

明治時代の物理学者寺田虎彦は、「天災は忘れた頃にやってくる」と言いましたが、今では、「天災は忘れる前にやってくる」時代になってきたように思えます。春夏秋冬を感じる穏やかな日本の四季が崩れていくように思えてなりません。肥田町でも、地域防災のあり方に一層の工夫改善を考えなければならぬと考えます。

最後となりましたが、今年は平成最後の年で、五月一日からは新しい元号の年となる印象に残る年となるでしょう。本年が皆様方にとっても、肥田町にとっても良い年でありますよう祈念申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

ご長寿お祝い
末永くお元気に！



卒寿 (昭和五年生まれ)

辻野美代さん
児玉富美さん

米寿 (昭和七年生まれ)

森野久子さん
薩摩かず子さん
藤野良一さん

傘寿 (昭和十五年生まれ)

藤野タキエさん
鶴野俊雄さん
辻野恭子さん
松枝義人さん

喜寿 (昭和十八年生まれ)

藤野節子さん
薩摩四郎さん
鶴野栄美子さん
大村国子さん

古希 (昭和二十五年生まれ)

大家由里子さん
小室宗純さん
西田幹雄さん
福原妙子さん
児玉和男さん
薩摩雅子さん
森田喜久雄さん
吉岡久次郎さん

還暦 (昭和三十四年生まれ)

青木祐樹さん
元持清さん
松村基男さん

敬老会開催



十月二十八

日、文化祭と同
時開催、初の試
みです。お楽し
みください。

いつまでも
ご健康で、長
寿を！

謹賀新年

農事改良組合長 薩摩敬造

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃は、改良組合業務に對しまして、ご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

今から十五年前に現在の改良組合役員「会計・書記」の前身、「水利・防除」の役員をやらせていただいた頃と現在の改良組合の業務とは随分変わってきています。時代が経過し、変わるのも当然だと思います。この間に圃場整備が行われ、農業経営体において法人が設立されたことが一番の要因ではないでしょうか。農家の実態が土地持ち非農家中心の農業経営に変化したことは、構成員の本質に変化が生じたというところであり、構成員の意識にも変化が生じてくることに繋がります。

現在の改良組合は、関係機関とのパイプ役の業務が多く、どちらかと言えば、昔の方が手間と時間はかかっていましたが、人との繋がりがあり、心が通う業務を行っていたように思います。今と昔を比較してどうのこうのとは言えませんし、本来の改良組合の業務とは何かと言われても答えができませんが、厳しい農業環境が続く中、農業施設の管理や将来的な老朽化・修繕対策、農道舗装などの新規投資要望など課題は多くあるかと思えます。

今後とも、改良組合が農業経営の基幹的役割を担っているという意識をもつて、農業経営者など関係機関（者）とのパイプ役を担い、より良い農村のあり方を探っていくかなければと思っております。同時に、昔の良いところは学び、活かしていくという「温故知新」のことわざも忘れず、新たな改良組合のあり方も模索していく必要も感じています。

残り任期も少ないですが、今後ともよろしくお願い申し上げますとともに、町民の皆様方にとつて素晴らしい新年となるよう祈念申し上げます。

謹賀新年

まちづくり委員会

委員長 薩摩四郎

明けましておめでとございます。

年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

まちづくり委員長として、肥田町のまちづくりを担ってから数年が経過しようとしています。バランスのとれた生活環境の整備や子供たちから高齢者まできめ細かく切れ目のない施策を心がけ、「住んで良かった、住みたい町」の実現に向け取り組みを進めていきたいと思っております。自治会と連携し、協力を深め、町民の皆様との交流の場を広げていきたいと思っております。

肥田町には素晴らしい歴史、文化遺産があり、たくさんの方々が見学にみえています。まちづくり委員会としても、環境保全にも取り組んで参りたいと思っております。

結びに、本年が町民皆様にとりまして素晴らしい一年になりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶いたします。

謹賀新年

農事組合法人ファーム肥田

代表理事 成宮一郎

新年おめでとうございます。

町民の皆様におかれましてはご家族お揃いで、平成最後の輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

振り返りますと平成十七年に自治会の皆様のご理解とご協力のもと特定農業団体肥田町農業生産組合を立ち上げました。「地域の和と継続性・収益性を図り肥田の農地は肥田で守る」ことを基本方針に集落農業が始まりました。

肥田町の担い手農家として米・麦・大豆の生産に地域一丸として取り組み、平成二十三年には農事組合法人ファーム肥田を立ち上げ、私は皆様のご協力のもと代表理事として彦根市内でどこにも負けない農村づくりをモットーに頑張ってきました。

昨年の収穫は近年の地球温暖化の影響が台風直撃の影響を受けて水稻の収穫やビニールハウス等に、また異常気象の影響等で大豆に大きな被害を受けました。しかし、麦は一昨年秋の圃場の状況から播種が遅れ心配しましたが、土地改良のおかげで豊作でありました。営業方針では三十年産の水稻は今までの農協販売から米屋さんへの直接販売に切り替え、収益の確保に努めさせていただきました。今後は、高く販売できる滋賀県の新品種「水かがみ」を中心に作付けを増やし、さらに収益の確保に努めていく予定であります。

農業を取り巻く環境は、米国がTPPからの離脱を表明、十一ヶ国での合意となり、今後は日米の自由貿易協定など二国間交渉を要求される可能性があり、平成三十年からの米制度改革の大きな不安要素になっている現状であります。

この様な状況が続けば、経営の持続性は危うくなると予測され、担い手の所得確保は水田農業の大きな課題であると思えます。また、こうした中、農業従事者の高齢化や後継者不足、農産物の価格低迷等依然厳しく、問題は山積み状態であります。

少子高齢化が進む中、農業農村を次世代に引き継いでいくことが求められており、肥田町のまちづくりの中心的存在として今後に期待されているところであり、今から、今後皆様のご理解とご協力を得ながら進めていく所存であります。

最後になりましたが、本年が町民皆様にとりまして良き年でありますようご祈念申し上げます。年頭のあいさつとさせていただきます。

成人式

お祝い

一層のご発展
を祈念します。

伊関伎さん



新年あけましておめでとうございます。

成人という人生の大きな通過点を迎えたのは、ひとえに今まで育ててくれた多くの方々の支えがあったからだと感じております。心より感謝申し上げます。

私は現在、大阪の大学に通っており、多種多様な考えを知るなどして毎日刺激を受けております。この恵まれた環境で私が考える今後は、自分のやりたいことのために、やらなければならぬことをする、ということなのです。

成人といってもまだまだ未熟ですが、これからもうましくお願い致します。

薩摩陸さん



新年あけましておめでとうございます。

私が今日の日は迎えられるのは、家族や友人をはじめ多



くの方々に支えられていたからだと思います。本当にありがとうございます。私は現在、県外の教育大学に通っています。将来、自分が育った地域に恩返しができるよう、今は努力を惜しまず、信頼される教師になれるようがんばっています。

筒井隆稀さん



哲学者のカントは、「未成年状態とは、他人の指示を仰がなければ、自分の判断力を使うことができないことである」と述べました。

この言葉を自分なりに考えてみると、人から導いてもらうことはばかり考えている者は、いつまでたっても大人になれないという意味であると思います。

私は、今年年齢の上では二十歳、すなわち新成人となったわけですが、本当にカントが述べているような未成年状態を脱却したといえるのでしょうか。自分自身で物事を見極め、判断できる人間になれているのでしょうか。思えば二十年間の人生で、数多くの選択や判断力を使う機会に出会ってきました。そのたびに周りの人々に助けられてきたと思います。そして、それは今後もこの後も続くはずです。

私は、新成人となるにあたってカントが述べているような人間になりたいと思います。そして、私が二十年間で得た知識を人のために役立てられるように、勇気をもって自分の人生を新たに切り開いていきたいと思っています。

藤野尋也さん



新年明けましておめでとうございます。

今年成人式を迎えて、私たちが

は世間の人から「大人」といわれ、自分自身に責任が問われる立場になりました。自身に責任が問われる年であることを自覚してこれから生活していきたいと思っています。

晴れて成人式を迎えることができたのも、家族や友人多くの方々の支えがあったからだと思っています。今まで支えてくださった方々に感謝することを忘れず、今度はその方々に恩返しができるように立派な大人を目指します。

松村幸太さん



新年明けましておめでとうございます。

こうして無事に成人の日を迎えることが出来たのは、今日まで家族や地域の皆様温かく見守られ支えていただいたお陰だと思ひ、深く感謝しています。まだまだ二十歳になったという実感はありませんが、一人の人間として責任を持ち判断できる大人になりたいと思っています。

現在、大学で国際経済を学んでいます。将来は海外で働きたいと考えています。

そのために外国語の勉強なども頑張っています。長期の休みには外国に行き現地の方と交流しながら色々経験させてもらっています。

様々な経験をたくさん重ねて世の中に貢献できるように日々努力をしていますので、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

宮川聖基さん



あけましておめでとうございます。

二十歳という大きな節目の歳を迎えるにあたり、これまで地域の方々

には、あたたかく見守ってください、大変感謝しています。

私は、高校卒業後、就職する道を選び、日々黙々と仕事に励んでいます。勤めだした当初はなかなか仕事に慣れず、心身ともに大変な時期もありましたが、最近では各工程に目を配れるようになり、仕事にやりがいを感じるようになりました。社会人となり、仕事を通じて様々な方とお会いする機会が増え、仕事や生活面においてアドバイスをいただくことが多々ありますが、その都度、自分はまだまだ未熟な点と痛感しています。成人となったことで、責任感が大変重要になってくると思います。

これからは、一つひとつの行動・言動に自覚を持ち、「自立」を目標に歩んでいきたいと考えています。そして、今日まで自分を育て導いていただいた方々や社会に、少しでも恩返しできるよう努めて参ります。

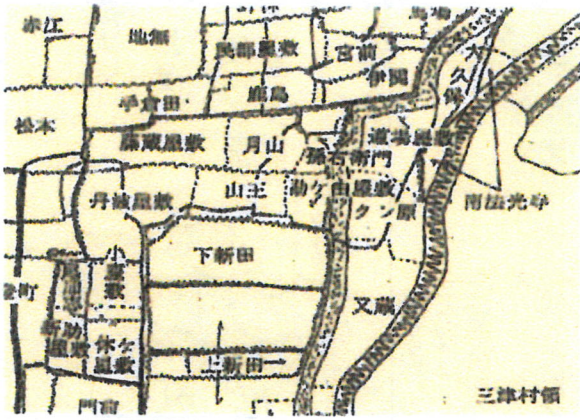
ふるさと歴史探訪記 3

高瀬 俊 英

肥田城はどの辺りに

肥田への訪問者が必ずしも城マニアでなくても、お城はどの辺りにあったかとよく問われます。

そこで、県道から城址公園に向かう入口に立つ「肥田城跡」の石碑の傍らの立看板に、「県道から宇曾川堤防まで約二百m、南にある公民館の方へ約二百m、約四ヘクタールの平地に室町時代、城が築かれ、沼地なども存在した。江戸初期に開墾されて、『新田』となる。」と記載されている旨を伝えていきます。



江戸時代の初め、慶安三年(一六五〇年)、肥田城は彦根藩によって取り壊されたという記録があります。「堤をこぼち、堀を埋め、土石を運び、開墾して新田三町五反九畝十七歩を得た」と書かれています。彦根城は徳川幕府による普請で築城されましたが、彦根城に使えるものは各地から調達されたので、大石などは宇曾川を船で彦根へ運ばれたことでしょう。また、三町五反云々は、旧小字名「上新田」「下新田」の合計面積とほぼ一致していますし、肥田城のあった場所と違って間違いないと思われます。

周りには武家屋敷が

肥田城を取り囲むようにして武家屋敷跡らしい小字名がいくつも残っています。

「民部屋敷」の民部というのは官職名で、城主高野瀬秀隆の息子隆景が民部大輔を名乗り、関係がありそうです。「丹波屋敷」は、高野瀬の家臣に久木丹波佐那がおり、福井で秀隆に従って殉死した人に関係がありそうで、久木氏の屋敷ではないかと思えます。「勘ヶ由屋敷」は、高野瀬氏の家臣に藤野勘解由がおり、藤野氏の屋敷のようです。

室町時代の武家屋敷は、それ自体が戦闘に備えた要素をもっており、城の補強にも役立ちました。



水攻めの
歴史にのこる
肥田城址
(彦根かるたより)

室町後半は民衆の力が高揚した

室町時代後半は戦国時代に入り、各地で戦争が絶えませんでした。その間にも、民衆はたゆまぬ努力によって、二毛作を普及したり牛馬による耕作等により、農業の生産力を高めていきました。

領主やその家臣たちが戦争のため駆け巡っている間に、団結して「惣そご」といった自治組織をつくる村も現れました。

また、領主に対し、年貢供出と引き換えに盗賊からの生命や生活の保護を要求したり、金貸しからの借金棒引きなども要求しています。(徳政一揆)

肥田城が水攻めを受けたとき、民衆の多くが城中に避難している様子が、江戸時代の書物「淡海小間様おうみこまざらひ」に書かれています。

編集後記 (森田喜久雄)

明けましておめでとございます。トランプ大統領に明け、トランプ大統領に暮れた二〇一八年。一人の大統領の発言や行動が世界の政治や経済を揺るがすとは、さすがアメリカ。他のどの国も真似できることではないでしょう。第二次世界大戦前、政治や経済で孤立化を図った結果が戦争を招くに至った歴史を思うとき、その再来かと危惧するのは私だけでしょうか。二〇一九年、今年はどんな年になるのでしょうか。

今年は、平成最後の年、新元号の幕開けの年です。新元号が公表されるのは四月とされていますが、どのような元号であらうと、新天皇の下、平和、安心、安全の時代であって欲しいものです。ちなみに十千十二支を見てみますと、今年は己亥(つちのこ)にあたります。

己は「草木が生い茂って整然としている状態」、「物事の道筋が整っている状態」を意味するそうですし、亥は「草木の生命力が種の中に閉じ込められた状態」をさし、粘り強さや意思の強さがあるそうです。そうしたことから、己亥は「来るべき時に向けて準備を整える状態」を意味するそうです。しっかりと準備して飛躍できる未来であって欲しいと思います。

国際的にも国内的にも様々な問題が山積し、一人ひとりの判断が求められる時代になっています。誰もが幸せに生きることができ、そんな社会に向けてみんなで力を合わせたものです。